

人間を救うのは、人間だ。 Our World. Your Move.

## 4. 部門別基本計画

- 外来部門
- ・関連のある診療科に配慮し、**ブロック構成**を設定する。

・呼び出しシステム又は患者個人の情報端末を使用した呼び出しを導入する。
- 救急部門
- ・**24時間・365日**救急医療を実施し、**救急車台数は年間4,000件を想定する**。

・外傷例の対応を想定し、救急部門内に小手術が可能な部屋(陰圧)を整備する。
- 病棟部門
- ・一般病棟は急性期一般入院料1の基準を満たす配置とする。

・病室構成は個室、4床室によって構成する。（個室率30%程度）
- 総合周産期母子医療センター部門
- ・仙台赤十字病院に設置されている**総合周産期母子医療センターの機能を引き継ぐ**。

・NICU 9床、GCU14床、MFICU 6床を同一フロアに整備する。
- HCU部門
- ・個室4床、オープンプロア8床で構成とし、**4床は将来ICU対応（20㎡確保）**として想定する。
- 手術部門
- ・想定手術件数は**年間4,000件**、手術室数は**9室**と想定する。
- 中央滅菌部門
- ・要滅菌器材の洗浄・組立て・滅菌・払出し業務を一元化するとともに、各部門への安定的かつ効率的な滅菌材料の供給体制を構築する。
- 内視鏡部門
- ・検査室は**上部3室・下部2室**とし、別途、放射線透視台を**2室**設置する。
- 放射線部門
- ・主な放射線機器の台数：**リニアック2台、PET-CT1台**
- 検査部門
- ・検体検査の検査室は原則、ワンフロアとし、血液検査・一般検査・生化学検査・免疫検査・輸血検査は同じ部屋内でエリア分けする。

・生理検査の待合は**20人～25人**程度とする。
- 化学療法部門
- ・外来化学療法ベッドは**15ベッド**とする。
- リハビリテーション部門
- ・病棟ではベッドサイドリハビリテーションを実施するとともに、急変リスクが高い循環器内科が入る病棟と感染リスクが高い血液内科が入る病棟（無菌エリア）に病棟リハビリテーション室を確保する。
- 薬剤部門
- ・外来処方**は原則院外処方**とする。

・調剤関連エリアはワンフロア化し業務効率化を図ると共に、院内他職種が薬剤部にアクセスし易い環境を整える。
- 栄養部門
- ・調理システムはニュークックチル方式を採用する。

・病棟のステーション内に管理栄養士の常駐スペースを設け、外来部門に専用の栄養相談室を2室設置する。
- 臨床工学部門
- ・ME機器の中央化により、効率的な運用・物品管理をする。
- 患者サポートセンター部門
- ・患者サポートセンターの主な機能は①入退院センター、②前方連携・退院調整、③患者相談・がん相談支援センター、④ベッドコントロールとする。

・相談室は半個室5室、完全個室3室の計8室とする。
- 事務管理部門
- ・駐車場を**1,000台程度**確保する。

・厚生施設として、コンビニエンスストア、バス停、タクシー乗り場などを設置する。
- 情報システム部門
- ・サーバー室は、**原則集中配置**とし、防災上の観点から2階以上のスタッフエリアに配置する。
- 災害対策部門
- ・災害時における患者多数発生時に対応可能なスペース及び簡易ベッド等の備蓄スペースを有する。

・トリアージスペースは、正面玄関周辺でスペース確保可能なエリアとする。

## 5. 医療機器・情報システム整備計画

### ■ 整備方針

- ・地域の中核病院として、救急医療・周産期医療・がん医療等の強化・充実を進めるために必要な医療機器、情報システムを整備する。
- ・**現有機能の維持を基本**とし、その上で、近年の医療技術の目覚ましい発展を鑑み、医療従事者の負担軽減や治療精度の向上、医療安全への寄与を図ることができる医療機器/情報システムを積極的に導入する。
- ・院内部門間での共同運用などによる整備台数の適正化を図り、新病院の健全経営に配慮する。**新病院統合後も継続利用可能なものは原則として移設し**有効活用することを検討する。

## 6. 事業収支計画

### ■ 概算事業費

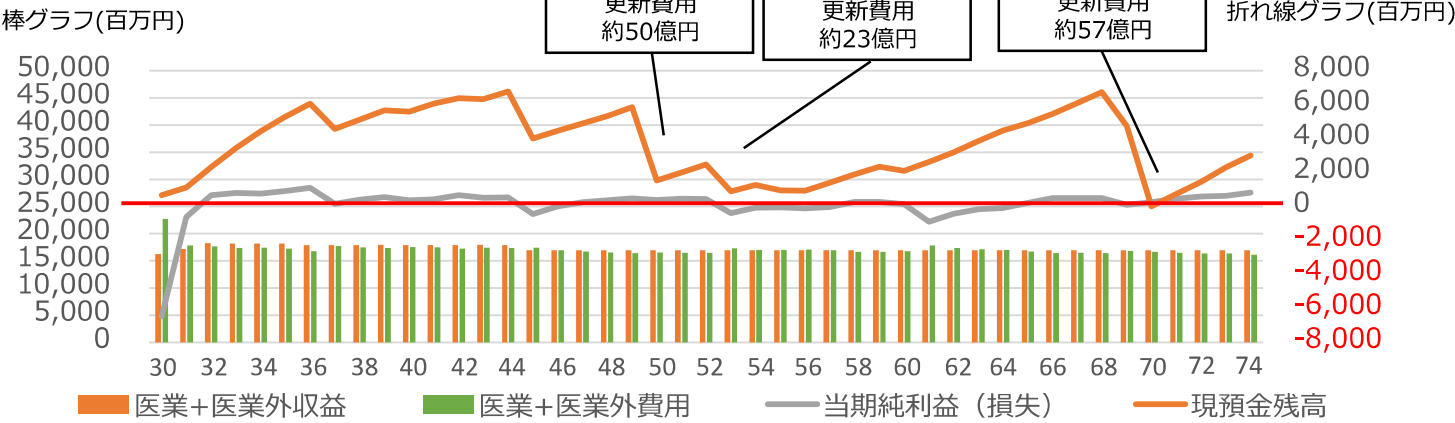
項目	内容	金額
1. 設計・監理費	基本設計、実施設計、設計監理	12億円
2. 建設工事費	病院本体、駐車場、外構工事	339億円
3. 医療機器等整備費	医療機器、什器備品等	59億円
4. 情報システム整備費	電子カルテ、部門システム、ネットワーク等	33億円
5. その他	初度調弁費、移設費、解体費等	43億円
合計		486億円

近年は物価上昇などにより病院建設工事の入札が成立しない事例も見受けられるため、今後の社会情勢も見据えながら設計段階においてさらに精査する必要がある。

### ■ 財源

項目	内容	金額
1. 補助金	地域医療介護総合確保基金（266億円）、県単独支援、国補助金	378億円
2. 借入金	日本赤十字社	108億円
合計		486億円

### ■ 事業収支計画



	2024年度（実績）		2030年度 （開院1年目）	2040年度 （開院11年目）	2050年度 （開院21年目）
	仙台日赤	がんセンター			
入院診療収益	6,672百万円	6,210百万円	8,684百万円	10,074百万円	10,074百万円
入院患者数/日	264.6人	259.7人	300.0人	348.0人	348.0人
入院診療単価	69,062円	65,501円	79,308円	79,308円	79,308円
外来診療収益	1,464百万円	4,544百万円	4,533百万円	5,666百万円	5,666百万円
外来患者数/日	437.4人	346.6人	529.6人	662.0人	662.0人
外来診療単価	13,776円	53,962円	35,224円	35,224円	35,224円